

PRESS RELEASE

人材会社ヘイズ 世界 31 カ国調査【グローバル・スキル・インデックス 2014 年版】を発表 日本の人材ミスマッチは昨年比で加速、アジアで最も深刻に

【2014 年 11 月 6 日】 外資系人材紹介会社ヘイズ・スペシャリスト・リクルートメント・ジャパン株式会社（本社：港区、リージョナル・ディレクター ジョナサン・サン普森、以下ヘイズ・ジャパン）は本日記者説明会を行い、世界 31 カ国における人材の需給効率を評価・分析した「グローバル・スキル・インデックス 2014 年版」の調査研究結果を発表しました。

「グローバル・スキル・インデックス」について

英ヘイズが英オックスフォード・エコノミクスとの共同研究により 2012 年から継続的に行っている研究で、人材市場に關与する 7 つの項目^(注1) について 0 から 10 までの数値^(注2) で指標化し、人材の需要と供給の状況を評価・分析したものです。今回の発表内容は、ヘイズが拠点をもつ世界 33 カ国中、31 カ国を対象としています。

(注1) 7 つの項目 = 教育の柔軟性、労働市場への参加、労働市場の柔軟性、タレント（人材）ミスマッチ、全体的な賃金圧力、ハイスキ（専門）業界における賃金圧力、ハイスキ（専門）職業における賃金圧力

(注2) 労働市場の均衡が最適な状態を 5.0 とし、0 に近づくほど人材の確保が容易（人手余り）、10 に近づくほど人材の確保が困難（人手不足）である事を示します。

研究結果の注目点

- 日本のタレント（人材）ミスマッチは加速しており、アジア（アジア太平洋地域）で最も深刻な状況に。
- 安倍政権下で労働改革が議論される中、労働参加率は改善していない。
- 日本における総合的な賃金圧力はこれまでにない勢いで上昇している。

2014 年度版の研究結果によると、日本では、企業が求めている能力（経験や専門性を有する人材）の需要と、実際に人材市場に供給されている能力（企業の需要に見合う求職者）の間に大きなギャップが存在しており、アジア太平洋地域の中で最も深刻な状況となっています。経済の好転に伴い転職市場が活性化する中で、長期にわたって転職活動を続けてもなかなか転職先が決まらない求職者が多数いる一方、企業側はスキルを持った有能な人材を慎重に求めるあまり長期にわたって空席が続いているポジションが多数現れるといった歪みが生じています。

特に「タレント（人材）ミスマッチ」における日本のスコアは 9.5（昨年度 9.1）と昨年のスコアを上回り^(注3)、有能な人材の確保がますます困難な状況にある事が浮き彫りになりました。

(注3) アイルランド、ポルトガル、スペイン、米国（いずれも 10）、英国(9.6)に次いで 31 カ国中 6 番目。

また、「労働市場への参加」の項目も 6.0 と昨年度（5.4）を上回り、女性の雇用促進など労働改革に関する議論が続く一方で、労働参加率は改善しておらず、寧ろ深刻化している傾向を示しました。

更に、「労働市場の柔軟性」のスコアも日本は 7.1 と高い数値を示しています（注 4）。

（注 4） ブラジル（9.3）、中国（8.0）、フランス（8.0）、コロンビア（7.4）、メキシコ（7.2）、ロシア（7.2）に次ぐ 7 番目。

ヘイズ・ジャパン リージョナル・ディレクターのジョナサン・サンブソンは、日本における有能な人材の確保が非常に厳しい状況について、次のように述べています。

「人材ミスマッチの拡大は、日本経済の成長の大きな足かせになっています。一部に改善の動きがみられるものの、国内の雇用制度は依然として柔軟性に乏しく、これが続く限り人材ミスマッチの課題は当面続くものと考えられます。」

「安倍政権は、労働規制の緩和やダイバーシティの促進など、労働力の拡大に向けた様々な取組みを始めたものの、経済環境が好転する中、有能な人材の獲得競争は今後更に激化していくものと見られます。」

こうした状況を反映して、企業は有能な人材の確保・流出防止に力を入れており、賃金水準はこれまでにない勢いで上昇しています。今回の研究結果でも、「全体的な賃金圧力」の項目で日本は 8.0 と、香港（10.0）、中国（8.4）に続き極めて高いスコアを示しました。一方、「ハイスキル（専門）業界における賃金圧力のスコア」は 2.7 と、総合的な賃金圧力に対して顕著に低く、これは高度な専門性を有する人材以外の一般需要も高いことを示しています。

もう 1 つ注目すべき点は、世界的に教育水準が高いとされている日本の「教育の柔軟性」が 2.8 と非常に低い事です。これは、日本の教育レベルが高い水準にありながら、企業側の視点において労働市場の需要を満たすような人材が生み出されていないという事を示しています。

ジョナサン・サンブソンは今回の調査を振り返り、下記のコメントで締めくくりました。

「日本経済は回復に向かっており、有能なスキルを持つ人材にとっては転職によって確実にキャリアアップが目指せる時期を迎えました。このような状況中、企業側は、従来とは異なる革新的な採用・育成戦略を打ち出し、有能な人材を確保する努力が必要となります。」

「ヘイズ・グローバル・スキル・インデックス」は、下記のウェブサイトでご覧いただけます。同サイトには、数値を比較したい調査対象国のアイコンをクリックするだけで瞬時にグラフ化し、そのまま活用していただける機能も付いています。
<http://www.hays-index.com/>

ヘイズ・グループは、専門性の高いプロフェッショナルを対象に人材紹介サービスを提供しているリクルートメントのグローバル・エキスパートです。

以上

※ 当プレスリリースは、本日開催した記者説明会の内容から抜粋したものです。「ヘイズ・グローバル・スキル・インデックス 2014」の詳細資料、ブリーフィング、取材などをご希望の方は、広報担当・森下までご連絡ください。

ヘイズ・グループについて

ヘイズ・グループは、グローバルな人材サービスを提供するスペシャリストの人材紹介会社です。2014年6月30日現在、世界33カ国*、237の拠点、20のエキスパート分野において、8,000人超の従業員が経験とスキルを備えた人材サービスをグローバルに提供しています。

ヘイズ・スペシャリスト・リクルートメント・ジャパン株式会社について

ヘイズ・スペシャリスト・リクルートメント・ジャパン株式会社は、ヘイズ・グループの日本法人として2001年に東京で設立されました。同社は日本で唯一、日本本社、新宿支店、大阪支店、そして7月1日に開設した横浜支店の4つの国内拠点を有する外資系人材紹介会社です。「経理・財務」、「金融」、「ファイナンス・テクノロジー」、「人事」、「IT」、「保険」、「法務」、「ライフサイエンス」、「オフィス・プロフェッショナル」、「不動産」、「セールス&マーケティング」、「サプライチェーン」、「ヘイズ・タレント・ソリューション」の13の専門分野に精通したコンサルタントが豊富な知識と経験をもとに、正社員から契約・派遣社員まで、企業の人材採用や個人のキャリアアップを支援しています。

*日本、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、中国、チェコ共和国、デンマーク、フランス、ドイツ、香港、ハンガリー、インド、アイルランド、イタリア、ルクセンブルグ、マレーシア、メキシコ、オランダ、ニュージーランド、ポーランド、ポルトガル、ロシア、シンガポール、スペイン、スウェーデン、スイス、アラブ首長国連邦、イギリス、アメリカ

報道関係者からのお問合せ：

ヘイズ・スペシャリスト・リクルートメント・ジャパン株式会社

広報担当 森下真千子 03 3560 1529 machiko.morishita@hays.co.jp